
2021年3月期第1四半期 決算概要
2021年3月期 業績見通し

2020年7月31日
カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2021年3月期第1四半期 決算概要

2021年3月期第1四半期 連結決算実績

単位：億円

連結	20年3月期 1Q	21年3月期 1Q	前年比
売上高	661	400	61%
営業利益	75	▲12	-
利益率	11.4%	▲3.0%	
経常利益	70	▲11	-
当期純利益	49	▲9	-
1株利益（円）	19.97	▲3.72	

セグメント別実績 売上・営業利益

単位：億円

		連結	20年3月期 1Q	21年3月期 1Q	前年比
売上高	コンシューマ		581	352	61%
	システム		67	38	56%
	その他		14	11	79%
	合計		661	400	61%
営業利益	コンシューマ		101	25	24%
	システム		▲9	▲18	-
	その他		0	1	137%
	調整額		▲18	▲20	-
	合計		75	▲12	-

2021年3月期第1四半期の事業別実績

					1Q
	時計事業	教育関数事業	収益改善事業※	その他	
売上高	222	50	115	13	400
営業利益率	11%	2%	-17%	—	-3%
増収率 (現地通貨ベース)	-44% (-42%)	-52% (-50%)	-21% (-19%)	—	-39%

※収益改善事業…電子辞書、楽器、プロジェクター、その他システム

収益改善事業の内訳)

売上高 : 電子辞書約17% 楽器約46%
 システム約33%(内プロジェクター 約18%)
 他電子文具
 営業利益 : プロジェクター -9億円

事業別売上 前年比

現通ベース 売上前年比

	1Q
時計	58%
教育関数	50%
辞書	64%
楽器	127%
プロジェクター	38%
その他システム	65%
合計	62%

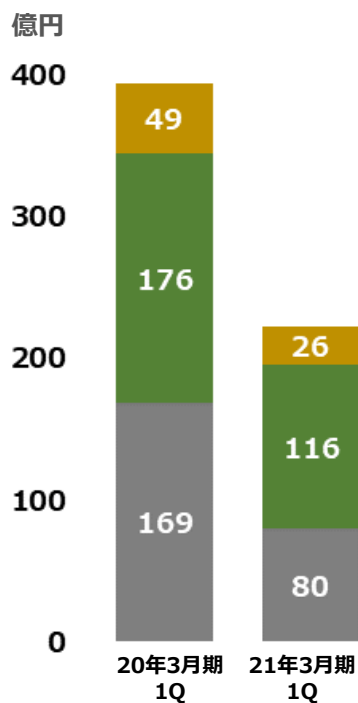
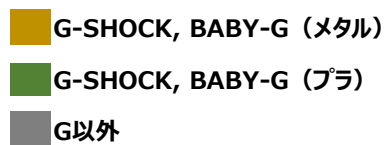
4月	5月	6月
46%	55%	70%
48%	45%	56%
50%	60%	98%
120%	132%	133%
34%	26%	46%
54%	59%	82%
53%	58%	72%

時計：アジア・新興国地域での主要店舗への客数の戻りが鈍く、売上回復に遅れ

教育関数：メイン市場のアジア新興国・欧州では約半数の国が休校中

時計事業（成長拡大事業）

【ジャンル別】（円ベース）



■ 1Q売上高：222億円 利益率：11%
（前年比 44%減収、現通ベース 42%減収）

- ・販売数量、平均単価
-時計全体:数量-45%、単価 +1%(円ベース)/+3%(現通ベース)



G-SHOCK
フルメタル
『GMW-B5000』

■ G-SQUAD販売好調スタート

・心拍計、GPS機能を搭載した健康チェックやトレーニングに最適なG-SQUAD『GBD-H1000』（5月発売）が好調
G-SHOCKファンの指名買いに加え、SNSを通じてコロナ下で健康意識が高まった新規ユーザーの取り込みも寄与



G-SQUAD
心拍計・GPS搭載
『GBD-H1000』

・GメタルはEC販売比率の高い中国では拡大したが、日米欧ではジュエラー等実店舗での販売が中心のため、店舗休業、外出制限の影響を受けた

【販売数量、平均単価】
-Gメタル:数量-45%、単価-2%(円ベース)/±0%(現通ベース)



G-SHOCK
FROGMAN
『GWF-A1000』

・購買マインドの強いG-SHOCKも実店舗休業の影響を受け、売上は減少

■ G-SHOCK以外の売上減少

コロナウイルス影響による消費者マインドの冷え込み、時計市場縮小が響き減収

- ・ノンブランドなどの一般時計に大きなマイナス影響
- ・OCEANUSは一部新製品の販売延期影響あり
- ・EDIFICEのHonda Racing限定モデル『ECB-10HR』好調



OCEANUS
カシヤロ
『OCW-P2000』



EDIFICE
Honda Racing
限定モデル
『ECB-10HR』

時計事業（成長拡大事業）

【エリア別概況】（前年比:現地通貨ベース）

各エリア共にコロナウイルス影響により減収

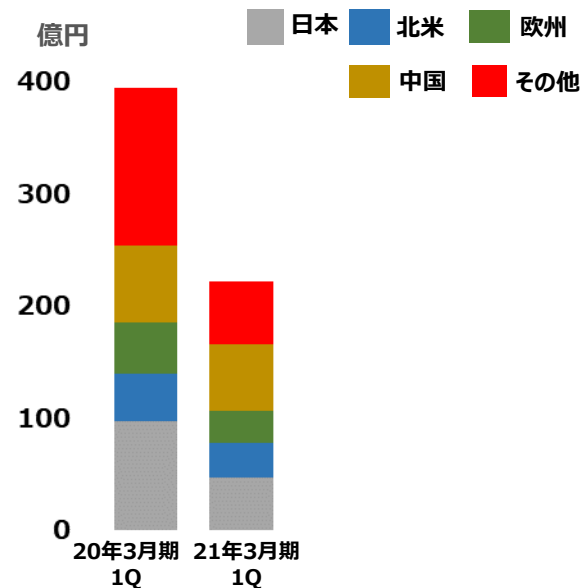
- 日本（前年比 -52%）
インバウンド消失と量販店休業により大きく減少
- 北米（前年比 -25%）／欧州（前年比 -32%）
店舗休業、外出制限の影響あるも、ECは好調推移
- 中国（前年比 -10%）
4月は実店舗・EC共に大きく減少したものの、5・6月に回復
但し、6月については北京でのクラスター発生影響あり
- その他（前年比 -59%）
新興国はEC販売比率が低いことから、店舗休業による
影響を大きく受けた

【EC販売実績】

全体：EC販売前年比105%（EC販売比率35%超）

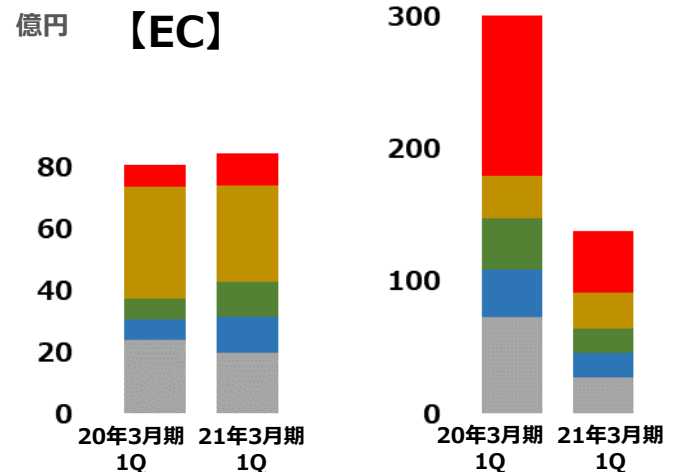
- 中国：EC販売比率50%強、天猫ブランドデイ好調
- 欧米：EC販売大幅拡大、特に自社EC販売拡大が顕著

【エリア別】



【実店舗】

【EC】



教育関数事業（成長拡大事業）

【既存事業】

- ・関数電卓：新興国を中心に学校休校影響により売上2Q以降にずれ込み（メイン市場の新興国・欧州では約半数の国が休校中）
- ・一般電卓：量販店、文具流通休業により減収

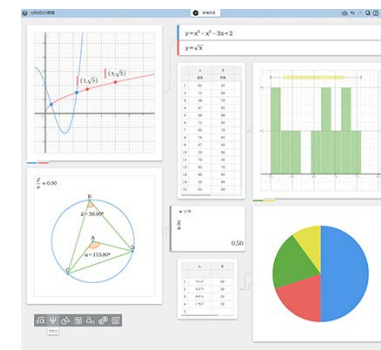


ClassWiz
『FX-991EX』

【新規事業】

- ・日本のオンライン学習化支援のため、ClassPad.net※を無償公開

※パソコンやタブレットで関数計算、
グラフ描画ができる数学学習ツール



収益改善事業

電子辞書

学生向けは学校での販売会中止の影響で売上の一部が
2Q以降にずれ込み
社会人・シニア向けは一時的に需要減退



楽器

巣ごもり需要により日米欧を中心に売上拡大
「Slim & Smart」の好調継続



プロジェクター

市場縮小に加え、メインの教育市場における学校休校影響
により大幅減収
⇒ 抜本的な見直し推進中



その他システム

コロナ影響による商談延期に伴う売上のずれ込み
SA：抜本的な見直し推進中



今期（2021年3月期）の取り組み

アフターコロナで一変する市場環境に適応するための
事業戦略の推進、並びに構造改革を今期中に完遂
⇒ **コロナ後(来期を想定)の高収益体質の基盤を確立**

アフターコロナを想定した来期事業計画（2022年3月期）

	売上高	営業利益	利益率
時計事業	1,600億円	290億円	18%
教育関数事業	550億円	80億円	15%
収益改善事業	600億円	30億円	5%
新規事業・その他 (全社調整額含)	50億円	-80億円	
合計	2,800億円	320億円	11%

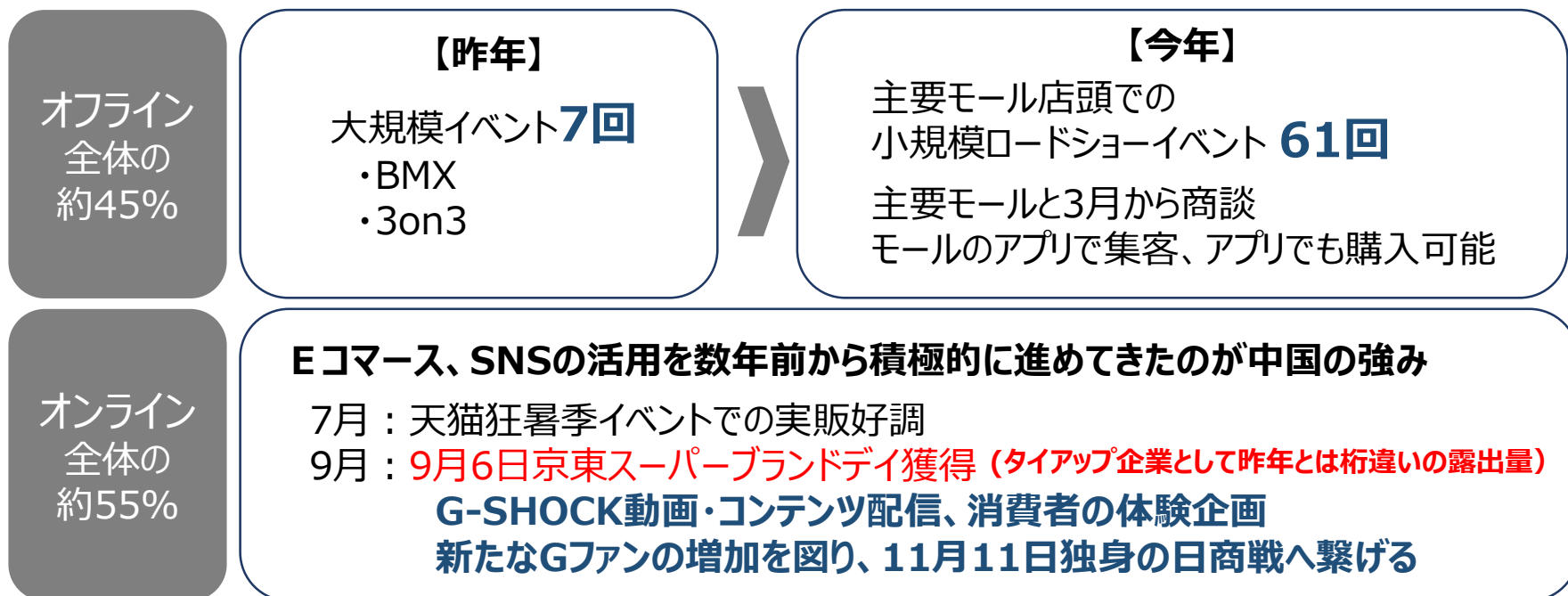
成功事例（中国:時計事業）

■ 対前年実績／計画

4月	5月	6月※	1Q	2Q計画	上期計画
67%	93%	105%	90%	約145%	約120%

※6月は北京でクラスター発生
影響のため想定より伸長せず

■ 2Qの営業政策



オンライン・オフライン双方で成功しているのはCASIOだけとの業界評価
⇒ 中国での成功事例を他地域（特にアジア・新興国の成長ドライバー市場）へ積極展開

成功事例（楽器事業）

Privia

超高品質なコンパクトピアノ、グランドピアノへの憧れを実現しつつ新しいピアノライフを提案

◇ユーザーターゲット：30～40代現役経験者／過去経験者

◇商品特性

- ・世界最短奥行き／容量世界最小&タッチパネルデザイン ※
- ・自然なタッチ感を実現した新鍵盤／自然で豊かな響きを実現したAiR音源
- ・スマホのオーディオ曲を本体スピーカーで再生

※ハンマーアクション付き88鍵盤・スピーカー内蔵
デジタルピアノの奥行きにおいて
(2019年1月現在、カシオ調べ)



スタイル・音・タッチの最適バランスを
実現した電子ピアノ PX-S1000

Casiotone

身近においてすぐに使えるスリムキーボード。
キーボードを身近にし新しい使用シーンを提案

◇ユーザーターゲット：従来の子供／ローティーンに加えて音楽好きの10～20代

◇セールスポイント

- ・スリム&スタイリッシュなグリップ付デザイン
- ・初心者でも操作しやすいインターフェイス
- ・演奏の楽しさを広げるダンスミュージックモード with ボイス



手軽に持ち運び、好きな場所で演奏が
楽しめる電子キーボード CT-S200

コロナ禍で顕在化 ⇒ 余暇時間活用のビギナー／昔弾いたことがある復活層

Slim & Smartコンセプト（商品特性）が新規ユーザー獲得に成功
楽器売上に占めるSlim & Smart比率：約40%（前年約30%）

アフターコロナに向けた今期取り組み（事業戦略）

時計

- 「商品中心の集客型マーケティング」から「ユーザー中心のデジタルマーケティング」へ
ライフスタイルブランドとなったG-SHOCKは『製品のサービス化』を実現しファンに豊かな『体験』を提供することを目指す
- G-SQUAD（トレーニング向けG-SHOCK）によるスポーツ・健康志向ユーザーへの新たな価値提供

教育関数／辞書

- GAKUHAN活動再拡大
教師向けオンラインワークショップを通じた「エミュレーター授業使用」促進
⇒ 先生はPC、生徒は関数電卓実機による数学授業
- 全世界的な教育のDX加速への対応
 - ・WEBアプリビジネス拡大（北米に加え日本、欧州も）
 - ・日本のGIGAスクール構想により新たに発生する学習ツール・コンテンツのニーズに対しGAKUHANで培った資産、ノウハウを活用

システム

■ プロジェクター

- ・抜本的な見直し推進中
- ・当社の半導体光源技術を活用した小型モジュールビジネスにシフト

■ SA

- ・前期特損計上により高級機ジャンルからは撤退
- ・キャッシュレス決済対応レジを中心とした新たなビジネスモデル構築

営業本部

- **事業及び市場環境の変化に合わせた、営業体制・流通・マーケティングの抜本的な見直し**
 - ・グローバルでの営業本部体制見直し
 - ・EC販売比率拡大、自社EC強化
 - 時計EC比率の将来ターゲット 全体:40%（内、自社EC:10%）
 - ⇒ 自社EC強化による双方向型のユーザーコミュニケーションの実現
 - ・海外拠点／代理店政策の見直し
 - ・デジタルマーケティングへの大幅シフト

アフターコロナに向けた今期取り組み事例（構造改革）

本社

- あるべき本社機能に即した体制の見直し(本社費の最適化)
- 新たな働き方に向けたITインフラ整備
 - ・緊急事態宣言下(日本:4/7~5/25)での在宅勤務率は85%
 - ・全従業員へのスマートフォン配布
 - ・業務の電子化／ペーパーレス化推進

変革オフィス

- 構造改革を強力に推進する全社横断組織(6月スタート)
- 外部知見も活用し、改革テーマを推進

アフターコロナ社会に対応した事業別中間ゴールイメージ

【中間ゴールイメージ】

	売上高	営業利益	利益率
時計事業	2,000億円	400億円	20%
教育関数事業	550億円	80億円	15%
収益改善事業	600億円	30億円	5%
新規事業	100億円	50億円	
調整額		-80億円	
合計	3,250億円	480億円	15%

コロナ前の右肩上がりの状態へ戻す

GAKUHAN再拡大
+WEBアプリビジネスの事業貢献

事業を抜本的に見直し、
構造改革完遂。継続的黒字体質へ

カシオの強みを生かし、継続的に
営業利益最低年間50億円を
每期確保できる新規事業構造確立

2021年3月期 業績見通し

2021年3月期計画

足元7月度の全社売上見込みは対前年約76%

今期の業績予想については、今後のコロナウイルス影響が不透明なため

第2四半期、及び下期の売上高を対前年の約75%※水準で推移するものと想定

(※下期は昨年2～3月のコロナ影響を考慮)

単位：億円

連結	2021年3月期計画					
	2Q	前年比	上期	前年比	通期	前年比
売上高	600	75%	1,000	69%	2,200	78%
営業利益	22	24%	10	6%	60	21%
利益率	3.6%		1.0%		2.7%	
経常利益	21	24%	10	6%	50	18%
当期純利益	14	18%	5	4%	30	17%
1株利益(円)	5.78		2.06		12.37	

2021年3月期計画 セグメント別売上・営業利益

単位：億円

		連結	2021年3月期計画					
			2Q	前年比	上期	前年比	通期	前年比
売上高	コンシューマ		543	79%	895	71%	1,985	81%
	システム		42	45%	80	49%	165	55%
	その他		14	94%	25	87%	50	90%
	合計		600	75%	1,000	69%	2,200	78%
営業利益	コンシューマ		50	47%	75	36%	190	49%
	システム		▲7	-	▲25	-	▲50	-
	その他		▲1	-	0	-	0	-
	調整額		▲21	-	▲40	-	▲80	-
	合計		22	24%	10	6%	60	21%

為替影響について

為替感応度(22/3) (主要通貨)

米ドル
ユーロ
人民元

為替前提 (年間)

108円
118円
15.0円

1円変動による影響額(年間)

売上高	営業利益
10億円	— (※1)
3.5億円	2.5億円
18億円	12億円

※1 ドル円は輸出・輸入がほぼ均衡しており影響軽微

為替レート実績(21/3) (前年差)

米ドル
ユーロ
人民元

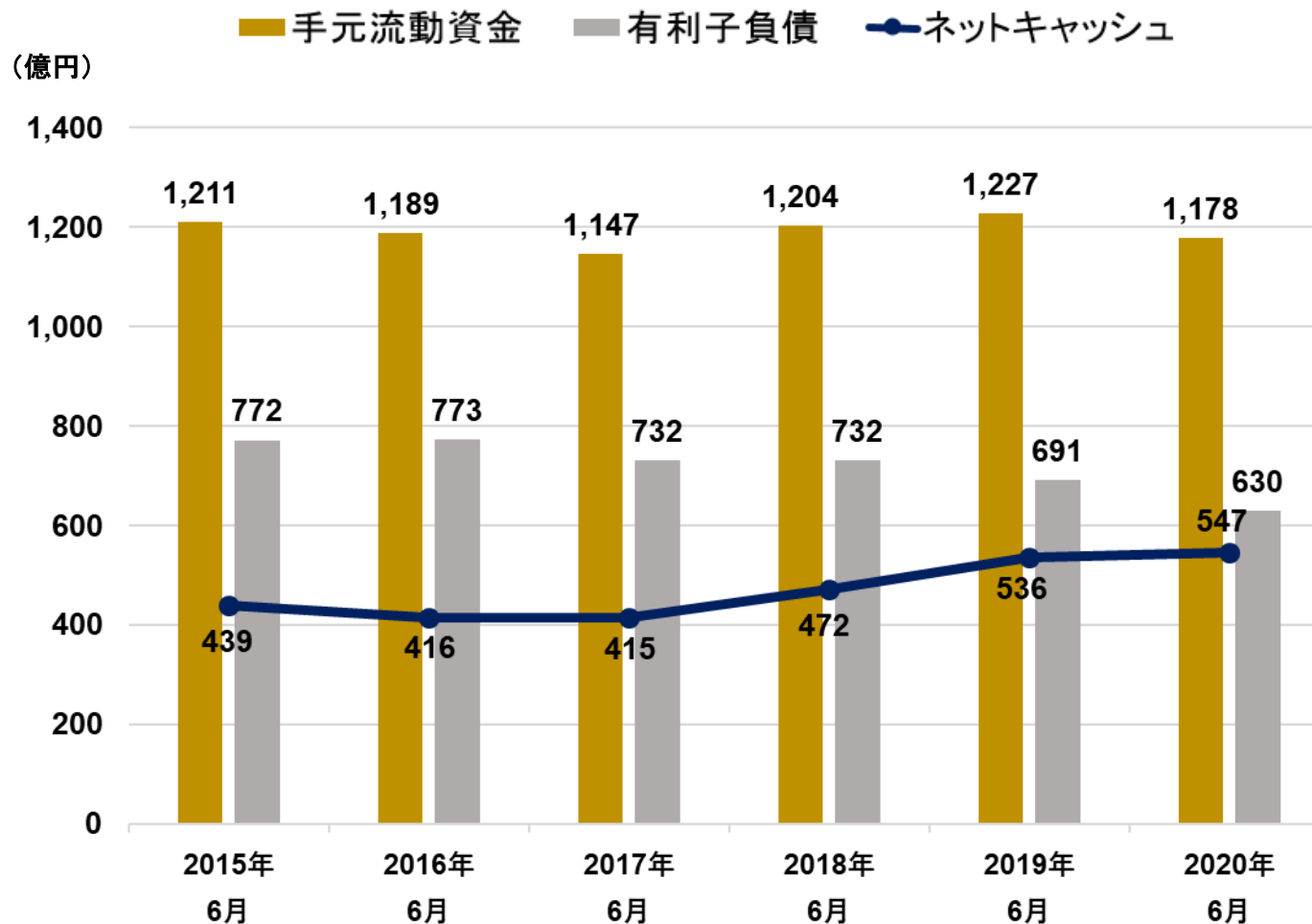
第1四半期

107.6円 (-2.3円)
118.5円 (-5.0円)
15.2円 (-0.9円)

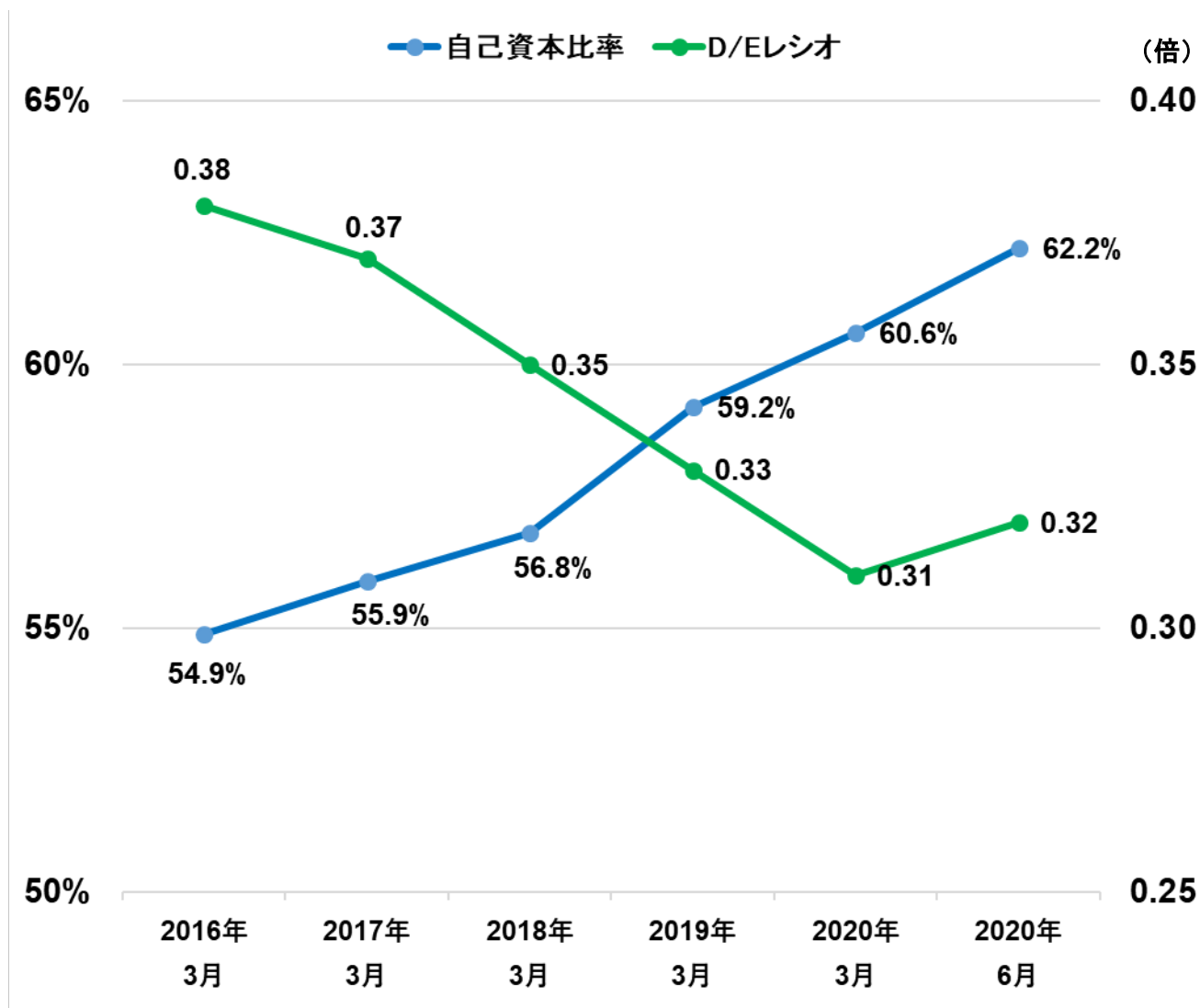
為替影響額

	1Q対前年比
売上高	-22億円
営業利益	-10億円

■手元流動資金・有利子負債・ネットキャッシュ(第1四半期対比)



■ 自己資本比率・D/Eレシオ



■年金財政

・年金財政は積立超過(財政健全化)を維持

	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	2020年 3月
年金資産	653億円	693億円	684億円	652億円	600億円
退職給付債務(A)	576億円	567億円	557億円	543億円	532億円
積立超過額(B)	+78億円	+126億円	+127億円	+108億円	+68億円
超過割合(B÷A)	+14%	+22%	+23%	+20%	+13%
電機・精密25社平均	-30%	-27%	-26%	-25%	-28%

END